

## 第1回 枚方市バリアフリー推進協議会 議事録

日時:平成28年9月29日(木)午後3時00分～午後5時00分

場所:枚方市役所 別館 4階 第3・4委員会室

### 1. 枚方市バリアフリー推進協議会の趣旨説明

- ・これまでの基本構想の策定経緯の説明
- ・枚方市・枚方公園駅および周辺地区の整備状況について説明

### 2. 主な意見等

(ア) 枚方市・枚方公園駅および周辺道路地区では特定経路については、計画通り、整備がほぼ完了していると考えてよいのか。

(事) 特定経路については、市道、府道ともに一定の整備が完了している。

(委員) 信号機の整備について、枚方市役所東、関西医大病院前、ラポール枚方前の信号処理を、歩車分離式にして欲しい。

(委員) これらの交差点について、主要幹線道路のため、現状は昼間帯の交通量が多くなっており、車両交通の停滞を招くおそれがあるので、歩車分離式にしていない。

(委員) 関西医大病院前とラポール枚方前の横断歩道は距離が近く、音響式信号を聞き間違えるおそれがある。同時に音響を鳴らすことができないか。

(委員) この場所は交通量が多いため、車両の騒音との兼ね合いから音量をある程度大きくしている。交差点の形状や交通の流れの違いから、音響を同時に鳴らすことは難しいため、今後、他の対策を検討したい。

(ア) 技術的には指向性スピーカーやパラメトリックスピーカーを用いることで、聞こえる範囲を狭めることができる。新たな施設の導入についても検討してほしい。

(委員) ホームドアの設置や、駅員による人的対応などの取り組みがあれば教えていただきたい。

(委員) ホームからの転落防止措置について、ホームドア導入については、駅や車両の構造上課題がある。そのため、当面は駅員および従業員全体の接客向上について、取り組むことで対応したい。あわせて、誘導ブロックの改良、音声の案内表示の改良などによる対策を図っていく。

(アド) 転落防止策については、鉄道事業者による対策だけでなく、一般利用者が視覚障害者への声かけに努めることも効果的である。また、バリアフリー新法において、ソフト対策の重要性が位置付けられているので、啓発活動などを進めていく必要がある。

(委員) 歩道のインターロッキングブロックはどのような条件で選択されているか。

(委員) 透水性や、視覚障害者誘導用ブロックとの輝度比などを考慮した色彩などの条件を総合的に考慮し、選定している。

(委員) 最近整備された歩道は、段差が高いように思われるが、どのような基準で設定されているか。

(委員) 現在整備している歩道はセミフラット方式を採用しており、歩道の段差をなくしつつ、透水性を考慮した構造となっている。国の移動等円滑化ガイドラインに沿って、視覚障害者の方がわかりやすい段差として、横断歩道部分は2センチメートル、車の乗り入れ部は5センチメートルの段差を付けて整備している。

(委員) 村野駅からサプリ村野までの経路が車いす等での通行が危険であるので、改善できないか。

(委員) 歩道設置については順次進めているところであるが、村野駅周辺は、当面整備は困難なところである。

(委員) 新たな歩道整備ができなくても、現在の歩行空間の段差や勾配の改良をして欲しい。

(委員) 部分的に対応できるところは改良していきたい。

(委員) 現在枚方市駅には、多目的トイレが1箇所しか設置されておらず、多目的トイレが汚れていることが多い、また、オストメイトは、トイレの利用に時間がかかるが、見た目はオストメイトとわからないため、利用がはばかれるという意見がある。

(委員) 駅施設の改良の際には検討課題の一つとして検討していく。また、トイレの清掃に関しては徹底したい。

(アド) 多目的トイレに機能が集中しているために、使いたい人が使えない施設になっており、機能を分散させる流れになっている。今後検討が必要である。

### 3. ・現地調査について説明

・今後のスケジュールについて説明

※ (委員) : 当事者・管理者・事業者等

(アド) : アドバイザー (学識経験者)

(事) : 事務局